

6 会社の責任と、青森県の責任

(1) 不法投棄をした会社の責任

汚れがまわりに広がらないようにすることや、不法投棄したごみを片づけたりすることは、本当は決まりを守らずにごみを運んだり捨てたりした会社がしなければなりません。その会社が無くなってしまったりしてできないため、暮らしや健康を守るため、青森県が代わりに片づけることにしました。

このためにかかるお金は青森県側だけでおよそ480億円にもなり、税金(安全・安心な暮らしをささえるため、みんなから集められるお金)などが使われます。

青森県は、不法投棄をした会社に、代わりにごみを片づけたりするのにかけたお金を支払うよう何度も命令していますが、会社にそれだけのお金が無くなったり、会社が無くなったりして、責任を果たすことができません。

(2) ごみを出した会社などの責任

不法投棄をした会社にごみの処理をお願いした会社(ごみを出した会社)にも責任があります。

会社や工場などで出たごみの処理をお願いする時は、そこが県などから認められた安心できる会社で、そのごみをきちんと処理する力があるかを確認しなければなりません。

安く引き取ってもらえるからといって、どんな設備があるのかわからないような会社にごみを出してしまうと、そのごみがきちんと処理されない心配があるからです。

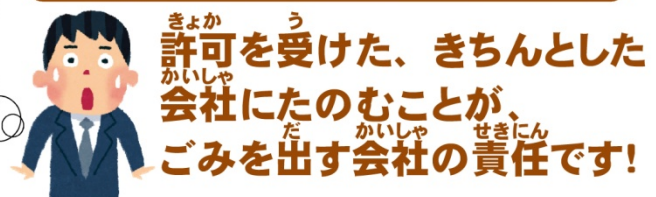
青森県は岩手県と分担して、不法投棄をした会社にごみの処理をお願いした会社が、決まりをきちんと守っていたかどうかを確認しました。会社の数は全部で1万2千社にもなり、青森県は半分の6千社ほどを受け持ちました。

調査の結果、決まりを守っていなかったことがはっきりした会社には、決まりを守らずに出した分のごみを片づけさせたり、それに見合うお金をださせたりしました。

ごみを出した会社や工場の中には、自分たちがごみの処理をお願いした会社が不法投棄をして、たくさんの人に迷惑をかけたとの思いから、ごみを自分たちで片づけたり、ごみを片づけるためのお金を自分から出した会社もあります。



たのんだ会社が、ごみをきちんと処理しなかったら？



許可を受けた、きちんとした会社にとのむことが、ごみを出す会社の責任です！

(3) 青森県の責任

青森県は、住民からの「ごみを運ぶトラックが夜中や朝早くに来ている」などの情報を受けて、何度もその場所に行って会社の人に確認したり、まわりの水が汚れていないか調べたりしましたが、不法投棄をしていることは確認できませんでした。

何日間も真夜中に見張りを続けたこともありますが、それでも不法投棄をしている証拠をつかむことはできませんでした。その会社は、不法投棄をしていることが決して見つからないよう、とても巧みにごみを捨てたことをかくしていたからです。

それでも、結果としてその場所にたくさんのごみが捨てられてしまったことについては、青森県にも責任があります。

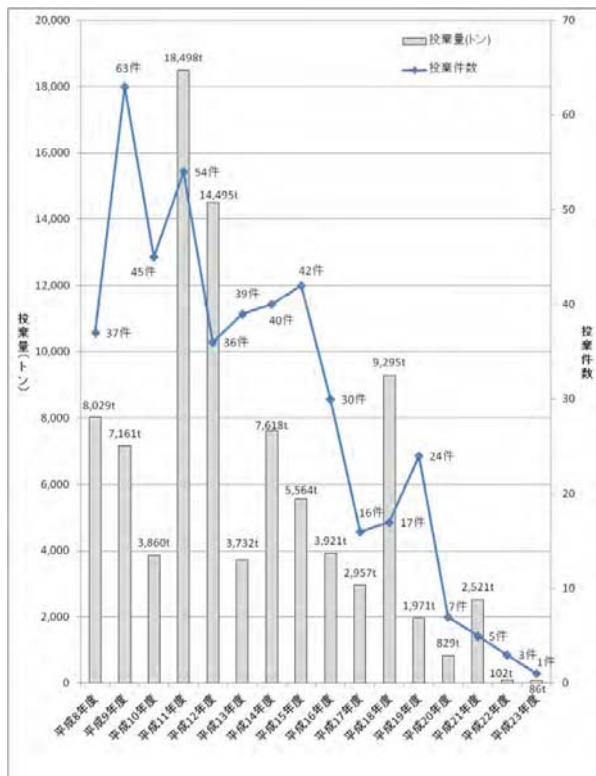
それは、もっときびしい態度で調べたり、ほかの部署からもっと情報を集めたり、警察と協力して取り組んだり、もっとできることがあったはずだからです。

このため、その仕事にあっていた青森県の職員は、きびしく注意されました。

(4) 再びごみが捨てられないようにするために

青森県は、たくさんのごみが捨てられてしまったことを反省し、こうしたことを二度と起こさないため、次のようにしました。

- ① 決まりを守らない会社には、ひるむことなく堂々と指導して決まりを守らせ、それでも決まりを守ろうとしない会社は罰するなど、きびしい態度で仕事をする。
- ② 県庁のほかの部署（農業や建設など色々な分野の仕事をしている人たち）や警察などと情報を交換し、協力して仕事をする。



左のグラフは、青森県内で新たにみつかった不法投棄(10トン以上)の件数などをあらわしています。

年をおごとに、不法投棄の件数が少なくなっているのがわかります。